

この夏の国際交流

コルサコフ市 アンサンブル団来紋

姉妹都市であるロシア連邦サハリン州コルサコフ市の市立芸術学校アンサンブル団「パープシキヌイ・ベースニ」が、7月20日来紋し、21日に文化会館で公演を行いました。

メンバーは、華麗な民族衣装に身を包み、民族楽器のパラライカなどが奏でるメロディーに合わせ、ロシア民謡のほか日本の童謡を美しいハーモニーで披露しました。また、観客をステージに誘い、一緒に踊り、楽しませ会場を盛り上げました。



ニューポート市に 行ってきました

8月4日から11日まで、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ニューポート市に中学生10名、随行3名の総勢13名が訪問。滞在中は、現地のお家庭にホームステイをしなから、多くの異文化を学び様々な方と交流し、たくさんの方の思い出を胸に帰国しました。



出発の朝(市役所庁舎前)

訪問団員の感想

木原繁樹(紋中3年)

初めて日本を出て海外へ行き、不安があったけど、現地の人達やホストファミリーに温かく接してもらい、不安がなくなり楽しく過ごすことができました。この一週間で一番心に残ったことは、日常の会話でした。慣れない英語で大変だったけど、相手の方が分かるうとしてくれたことがうれしかったです。そして、たくさんの方を訪ねることができて、とても楽しかったです。

石井亮介(紋中3年)

今回初めてニューポート市に行くと、特に心に残ったのは「人の温かさ」で、ニューポートの人達は皆、自分達のことをうれしそうに迎えてくれて本当に楽しかったです。この訪問は長いように感じたけど、すごく短く、かなり充実した一週間でした。

澤田知樹(紋中2年)

今回の訪問が初めての海外

だったので、いろいろな心配がありました。その心配も感じないで、ホストファミリーと過ごせました。そして訪問中で一番の思い出になったのは、ホストファミリーと過ごした日々です。この訪問は僕の一生の思い出となるでしょう。

菅原康太(紋中1年)

アメリカで誕生日を過ごして良かった。こんなことは、一生に一度あるかないかのことです。またニューポート市に行きたいけど、あんなに飛行機は乗りたくないと思います。ニューポート市に行かせてくれた親に感謝したいと思います。



パースデーパーティー

阿部茉弥(潮中3年)

今回ホームステイした家が

森の中にあつてもビックリした。感じたことは「何もほしくないー同じ気持ちでいれる」ことに意義を感じました。Thank You!!

泉 彩香(潮中3年)

今回の訪問では、日本では体験出来ないことが出来たり、とても楽しく過ごせました。会話は、全部英語でうまく話せないこともあったけど、真剣に聞いてくれました。これからも、訪問して知り合った人と交流を続けていきたいと思っています。

嘉野まり子(潮中2年)

今回訪問したニューポート市は、海がキレイで、ホームステイ先の人達もとても親切にしてくれて、とても優しく「すごく良い所だなあ」と思いました。なので、来年紋別に来て私の家にホームステイをする事になったら、温かく迎えたいと思います。そして、今回このように良い思い出をさせてくれた、先生方、親、そして一緒に訪問した皆に感謝しています。とても良い夏休みを、良い思い出をTHANK YOU!

真坂早紀(紋中1年)

私は、今回ニューポート市に行けて、本当に良かったと思っています。最初バスから降りてホームステイ先の家族と会う時は、すごく不安だったので、家族に会うとすぐ温かく迎えてくれて不安もすぐに吹っ飛びました。その家族に日本語を教えると、すぐ覚えてくれて「おいしい?」などと日本語を使ってくれて、とてもうれしかったです。一日一日過ぎていくのが早く、別れるときはもつとニューポートにいたくて悲しい気持ちになりました。実際に現地の人と英語で会話したのは初めての経験など、いろいろな経験ができてすごく思い出に残る夏になりました。

南有香(紋中3年)

今回は、ホームステイで得たものは友情と愛情。他の学生ではあまりできない、外国の友達もできました。そしてリジーちゃんのお家の人からいろいろな愛情をもらい、自分の周りの人達にとっても感謝しています。このホームステイは、自分の歴史にきざまれる

ことと思います。



ヤクナイヘッドの海岸にて

山本佳奈(紋中1年)

今回私は、初めて家族と離れて旅行というものをしました。一人で飛行機に乗るのももちろん初めてで、不安でいっぱいでした。けれど、その不安は、ニューポートに着いてホストファミリーの方達と対面して、すぐに消えました。みんな本当に温かく迎えてくれて、驚くほどでした。私の単語を並べただけのような英語を必死に聞いて、それを理解しようとしてくれて、その心に感動しました。ニューポートでホームステイして、本当に多くの事を学ぶことができました。文化の違い、生活習慣の違い、食の違い、他にもたくさん日本の違いを

学べました。最高の夏休みでした。一生の思い出に残ると思います。

斉藤順一(国際交流委員会 副会長・訪問団長)

4日から11日までの旅、子ども達はとても元気でした。何より親善の目的を心がけ、身振り手振りでコミュニケーションを図ってきました。子ども達にカンシャいました。



パーベキューパーティー

鈴木修平(紋別北高教諭・訪問団通訳)

英語ができる、できないに関係無く、参加した子ども達は、ニューポート市の親善訪問団としての役割を立派に果たしたと思います。現地にて、積極的に交流する姿は、日に日に頼もしくさえ感じています。誰もが「楽しかった。」

また行きたい。」と思える気持ちだが姉妹都市交流の絆を深める大きな一つになっているという事もわかりました。大変お世話になりました。有り難うございます。

森野憲道(市国際交流係長・訪問団随員)

この度の中学生親善訪問団の派遣に際し、不安と期待の入り交じる中、ホームステイ5泊という今までにない経験を立派に、そして随員共々楽しく過ごすことができたことを、現地姉妹都市委員会並びに派遣訪問団の皆さんに感謝いたします。



ニューポート市議場

カーリングへの熱い思い 国際交流講演会

カーリング競技でソルトレーク、トリノ両オリンピックに出場した小野寺歩さん、林弓枝さんを講師に招き、7月17日文化会館で国際交流講演会が行われました。

「カーリングに懸けた、夢と希望」と題したトーク形式で、オリンピック代表になるまでの苦労、カーリングへの熱い思いや海外試合を通じての外国選手とのエピソード、ホームステイでの体験や受け入れを通じて感じたことなどを紹介。そして最後に「今後もカーリングを全国に広めていくとともに、いつかメダルを取りたい」と講演を締めました。

